

R8年度“調布スマートシティ協議会”の取組の方向について

R7年度末時点 ▶ 協議会の在り方や今後の方向について、議論を深める必要性を認識・共有

＜市民ニーズ等現況分析PTからの報告＞（R7年度第3回幹事会 議事要旨から抜粋）

■ PTメンバーからの説明

- PTは今後の協議会活動につながる示唆出しを役割として活動してきた。PTからの提案に対する具体的な検討やスケジュール感については、来年度以降、今後は協議会の全加盟団体に検討することとして、引き続き議論していきたいと考えている。

■ 主な意見

- 幹事会のような大勢集まるオフィシャルな会議の場では、組織を代表して意見をすることは難しいと感じることがあった。腹を割って話してみるという提案をしたが、少人数でフランクな議論を行い、自由にアイデアを発想する場があってもよいのではと感じた。
- PTで活動し、ワークショップの中で、本音で具体的に話せたことが有意義だった。こういった仕組みがあることで、あらたなアイデアや取組の実現に期待が持てると感じた。同時に、ワークショップのやり方には専門的な知識やノウハウが不可欠であることを実感し、ファシリテーターの重要性を認識する機会となった。今後の協議会でどのように仕組みとして作っていくかについては、これから協議会で議論できればと思う。
- 自分たちの会社が何のために参加しているのか、参加することで会社として実現したいことは何か、自社の中で整理し、それを言語化し、会社を背負って話せるようにすることが、腹を割って話すことの出発点になると感じ、社内で議論したいと思った。

→ “腹を割って”話せる（「何をしたい、何ができる、何を協力してほしい」を示す）体制（場）の検討

⇒ 各団体が参加目的を果たすことができる（自らの参加目標を実現できる）協議会への転換

… **協議会の“役割”の明確化**